

自己双対型 PotBKZ 基底簡約の提案と BKZ との比較

◎ 佐藤 新¹ 安田 雅哉¹

¹ 立教大学

2025 年 1 月 29 日 (水)

研究背景

格子暗号の安全性評価と基底簡約アルゴリズム

- **格子暗号は耐量子計算機暗号の一つ (ML-KEM, ML-DSA, Falcon)**
 - ▶ 安全性は SVP や CVP などの格子問題の求解困難性に基づく
 - ▶ 格子暗号の安全性評価には、格子問題の求解困難性評価が必要
- **基底簡約は格子問題の求解に必須の技術**
 - ▶ LLL [7] \rightsquigarrow 格子次元に関して多項式時間計算量
 - ▶ BKZ [9] やその改良 \rightsquigarrow ブロックサイズに関して指数時間計算量
 - ★ BKZ は強力な基底簡約アルゴリズムで、安全性解析における標準ツール
 - ★ LLL と異なり、BKZ の停止性は理論的には保証されていない
 - ★ 実用上、実行時間や繰り返し (ツアー) 回数に上限を設けて強制停止 (fp111[2] 内の BKZ オプションとして max_time や max_loops がある)

本研究の目的

停止性を保証する BKZ の変種の提案と BKZ との実験比較

① 停止性を保証する BKZ[9] の変種 **PotBKZ** を提案

- ▶ 基底に対して定まるポテンシャル量を利用
 - ★ ポテンシャル量は LLL[7] の多項式時間での停止性を保証する量
- ▶ PotBKZ ではポテンシャル量を単調減少させる基底操作のみを行う
⇒ 多項式回のツアー回数で停止することが保証できる

② PotBKZ の様々な変種を開発＋実験比較

- ▶ 双対型や自己双対型の PotBKZ まで開発
- ▶ BKZ と実験比較：BKZ とのツアー回数，出力基底の品質を比較

数学的準備：格子の基礎

定義 1 (格子の GSO ベクトルと体積)

- 一次独立な b_1, \dots, b_n の整数係数の一次結合全体

$$L = \mathcal{L}(b_1, \dots, b_n) := \{ \sum_{i=1}^n a_i b_i \mid a_1, \dots, a_n \in \mathbb{Z} \}$$

を**格子**, $\{b_1, \dots, b_n\}$ を**基底**, n を**次元**と呼ぶ.

$$b_1^* := b_1, \quad b_i^* := b_i - \sum_{j=1}^{i-1} \mu_{i,j} b_j^*, \quad \mu_{i,j} := \langle b_i, b_j^* \rangle / \|b_j^*\|^2$$

で定義される b_1^*, \dots, b_n^* を **GSO ベクトル**, $\mu = (\mu_{i,j})$ を **GSO 係数行列**と呼ぶ.

- 格子 L の**体積**を

$$\text{vol}(L) = \prod_{i=1}^n \|b_i^*\|$$

と表し, これは基底にとり方によらない

数学的準備：基底簡約の概要

- **基底簡約**：長く平行に近い基底を短く直交に近い基底に変換する操作

- ▶ 格子の基底は無数に存在
- ▶ 良い基底の方が SVP や CVP などの格子問題が求解しやすい
- ▶ 代表的なアルゴリズム：LLL[7], BKZ[9]

$$\begin{bmatrix} 87349 & 0 & 0 & 0 \\ 83474 & 1 & 0 & 0 \\ 98247464 & 0 & 1 & 0 \\ 847984 & 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{\text{基底簡約}} \begin{bmatrix} -8 & 8 & -1 & 3 \\ -7 & -9 & 14 & 4 \\ -2 & -3 & -11 & 16 \\ 8 & 6 & 12 & 17 \end{bmatrix}$$

悪い基底 **良い基底**

基底のノルムが長くほぼ平行 基底のノルムが短くほぼ直交

ポテンシャル量とLLL アルゴリズム

基底 $\{b_1, \dots, b_n\}$ のポテンシャル量

$$\text{Pot}(\{b_1, \dots, b_n\}) := \prod_{k=1}^n \|b_k^*\|^{2(n-k+1)} > 0$$

LLL アルゴリズム [7]

- 次の条件を満たす基底を見つける

① $|\mu_{i,j}| \leq 1/2$

② $\delta \cdot \|b_{k-1}^*\|^2 \leq \|\pi_{k-1}(b_k)\|^2$

- 特に、条件 2 を満たさない

(b_k, b_{k+1}) を交換 (Step 7)

- ▶ ポテンシャルが δ 倍ずつ減少

\implies **多項式時間で停止**

Algorithm LLL 基底簡約アルゴリズム [7]

Require: 格子 L の基底 $\{b_1, \dots, b_n\}$

定数 $1/4 < \delta < 1$

Ensure: δ に関して LLL 簡約された基底

1: $k \leftarrow 2$

2: **while** $k \leq n$ **do**

3: 基底をサイズ簡約 [6]

4: **if** 条件 2 を満たす **then**

5: $k \leftarrow k + 1$

6: **else**

7: $\text{swap}(b_k, b_{k+1})$

8: $k \leftarrow \max\{k - 1, 2\}$

DeepLLL アルゴリズムと PotLLL アルゴリズム

基底に対する **deep-inserion** という操作

$$\sigma_{k,\ell}(\{b_1, \dots, b_n\}) = \{\dots, b_{k-1}, b_\ell, b_k, \dots, b_{\ell-1}, b_{\ell+1} \dots\}$$

DeepLLL アルゴリズム [9]

- 次の条件を満たす基底を見つける

① $|\mu_{i,j}| \leq 1/2$

② $\delta \cdot \|b_i^*\|^2 \leq \|\pi_i(b_k)\|^2$

- 条件 2 を満たさない基底を deep-insertion で入れ替え

- ▶ ポテンシャルは増えたり減ったり
⇒ **指数時間**

PotLLL アルゴリズム [3]

- 次の条件を満たす基底を見つける

① $|\mu_{i,j}| \leq 1/2$

② $\delta \cdot \text{Pot}(B) \leq \text{Pot}(\sigma_{k,\ell}(B))$

- 条件 2 を満たさない基底を deep-insertion で入れ替え

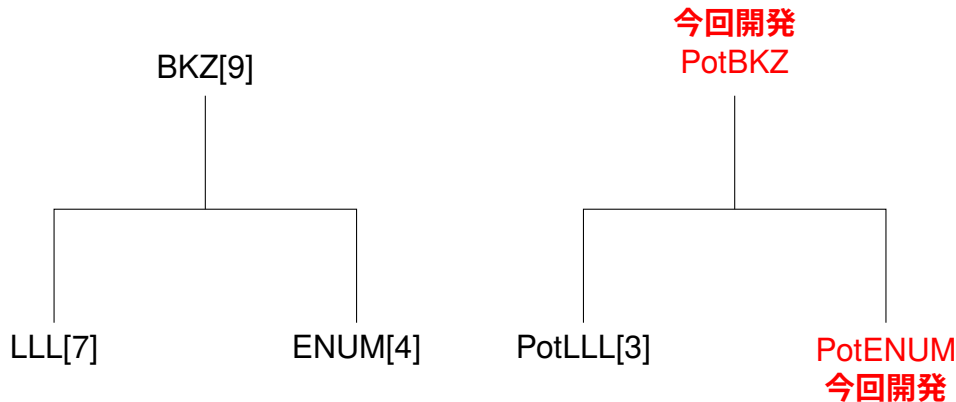
- ▶ $\text{Pot}(B)$ を下げる deep-insertion のみ
- ▶ ポテンシャルが単調減少
⇒ **多項式時間で停止**

PotENUM : PotLLL の一般化

- $\text{Pot}(\mathbf{B})$ を減少させる格子ベクトル $\mathbf{v} = \sum_{i=j}^m v_i \mathbf{b}_i$ ($v_m = 1$) の数え上げ
 - ▶ $\mathbf{C} = \{\dots, \mathbf{b}_{j-1}, \mathbf{v}, \mathbf{b}_j, \dots, \widetilde{\mathbf{b}}_m, \dots\}$: j 番目に \mathbf{v} を挿入+ \mathbf{b}_m を除去
 - ▶ $\text{Pot}(\mathbf{C}) < \text{Pot}(\mathbf{B})$
 (cf., PotLLL[3] では deep-insertion $\sigma_{j,m}$ で得られる基底に限定)
- 従来の ENUM[4] と PotENUM の比較 ($D_i := \|\pi_i(\mathbf{v})\|$, $B_i := \|\mathbf{b}_i^*\|$)

	ENUM[4]	PotENUM
\mathbf{v} の条件	$D_j < B_j$	$D_j^j \prod_{i=j+1}^{m-1} D_i^2 < \delta \prod_{i=1}^{m-1} B_i$
探索方法	$D_j < R^2$	$D_j < R_j^2, R_j^2 = \left(\frac{\delta B_1 \cdots B_{m-1}}{D_{k+1} \cdots D_{m-1}} \right)^{1/j}$
挿入による効果	$\ \mathbf{b}_j^*\ $ を減少	$\text{Pot}(\mathbf{B})$ を減少

PotBKZ (1/2) : BKZ との構成の差異



- PotBKZではBKZのLLLをPotLLLに、ENUMをPotENUMに置き換え
- PotLLLとPotENUMはどちらもポテンシャルを単調減少
 - ▶ PotENUMが呼ばれる回数（ツアー回数）は**格子次元に関して多項式的**

PotBKZ (2/2) : アルゴリズムの概要

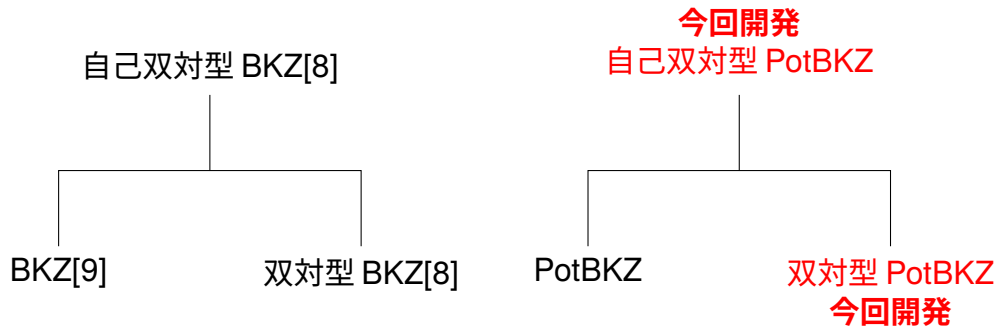
Algorithm PotBKZ 基底簡約アルゴリズム

Require: n 次元格子の基底 $\{b_1, \dots, b_n\}$, 簡約変数 $1/4 < \delta < 1$

Ensure: 簡約された基底 $\{b_1, \dots, b_n\}$

```
1:  $\{b_1, \dots, b_n\} \leftarrow \text{PotLLL}(\{b_1, \dots, b_n\}, \delta)$  /* BKZ[9] では LLL[7] を利用*/
2:  $z \leftarrow 0$ 
3: while  $z < n - 1$  do
4:    $j \leftarrow (j \bmod n - 1) + 1; k \leftarrow \min(j + \beta - 1, n)$ 
5:    $v \leftarrow \text{PotENUM}(\pi_j(b_j), \dots, \pi_j(b_k))$  /* BKZ では ENUM[4] で最短ベクトルを探索*/
6:   if no solution then
7:      $z \leftarrow z + 1$ 
8:   else
9:      $\{b_1, \dots, b_n\} \leftarrow \text{MLLL}(\{\dots, b_j, v, b_{j+1}, \dots\}, \delta)$  /* MLLL[9] で一次独立性を除く*/
10:     $\{b_1, \dots, b_n\} \leftarrow \text{PotLLL}(\{b_1, \dots, b_n\}, \delta)$ 
11:     $z \leftarrow 0$ 
```

自己双対型 PotBKZ : 自己双対型 BKZ との構成の差異



- 自己双対型 PotBKZ は PotBKZ とその双対型を**交互に呼び出す**
- 双対型 PotBKZ を開発
 - ▶ 双対基底を求めるには**逆行列計算が必要**
 - ▶ 双対型 PotENUM \rightsquigarrow 双対基底への挿入でポテンシャルが減少するベクトルの数え上げ
 - ▶ **逆行列計算が不要**

実験結果 (1/3) : 実装方法と実験方法

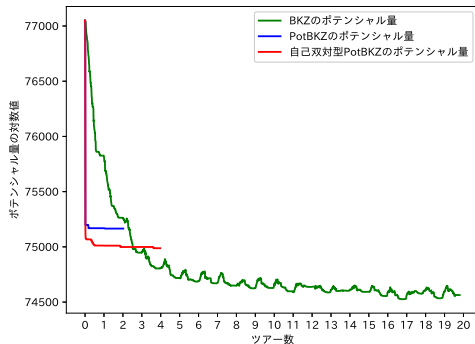
● 実装方法

- ▶ 実装は総て C++ 言語で NTL ライブラリ [10] と Eigen ライブラリ [5] を使用
- ▶ g++ でコンパイル
- ▶ コンパイルオプションは `-O3 -mtune=native -march=native -mfpmath=both`
- ▶ 基底は long 型, GSO 情報は long double 型を使用

● 実験方法

- ▶ SVP-challenge[1] のシード 0~9 で実行
- ▶ ツアー回数, ポテンシャル量の対数値, **GSA スロープの傾き**の平均をとる
 - ★ GSA スロープの傾きは良い基底を判断する指標の一つ (小さい方が良い)

実験結果 (2/3) : 100 次元のポテンシャル量の変化



- **PotBKZ** は 1 ツアー目で一気にポテンシャルが低くなり、その後 **2 ツアーで停止**
- **自己双対型 PotBKZ** も同様の挙動を取り **4 ツアーで停止**
 - ▶ PotBKZ より **小さいポテンシャル量をとる**
- 一方, **BKZ**[9] は緩やかに減少し、その後 **7 ツアー目頃から停滞を続ける**

実験結果 (3/3) :

● 実験結果

- ▶ Intel Core i7-1355U @ 1.70 GHz 上で実験
- ▶ ブロックサイズは $\beta = 40$ を選択
- ▶ PotBKZ は約 2 回程度のツアー回数で停止
- ▶ 自己双対型 PotBKZ も約 5 回程度のツアー回数で停止
 - ★ PotBKZ よりも低い GSA スロープの傾きとポテンシャル量の対数値の比をとる
- ▶ 一方, BKZ[9] と比較すると高く, 十分に下げられていない

格子 階数	BKZ[9]			PotBKZ			自己双対型 PotBKZ		
	ツアー 回数	log Pot の比	$-\rho$	ツアー 回数	log Pot の比	$-\rho$	ツアー 回数	log Pot の比	$-\rho$
100	≥ 20	0.9668	0.0553	1.9	0.9735	0.0615	4.8	0.9714	0.0595
110	≥ 20	0.9658	0.0561	1.9	0.9722	0.0617	5.2	0.9697	0.0594
120	≥ 20	0.9616	0.0558	1.7	0.9685	0.0612	5.9	0.9665	0.0597

まとめ

● PotBKZ と自己双対型 PotBKZ の開発と実験

- ▶ ポテンシャルの単調減少により停止性の保証された BKZ[9] の変種
- ▶ 基底への挿入でポテンシャルが減少するベクトルを数え上げる PotENUM を開発
- ▶ その双対版，自己双対版を開発
- ▶ 120 次元格子での実験結果
 - ↪ PotBKZ は **2 ツアー程度**，自己双対型 PotBKZ は **5 ツアー程度**で停止
 - ↪ 一方 BKZ は **20 ツアー以上**を要する

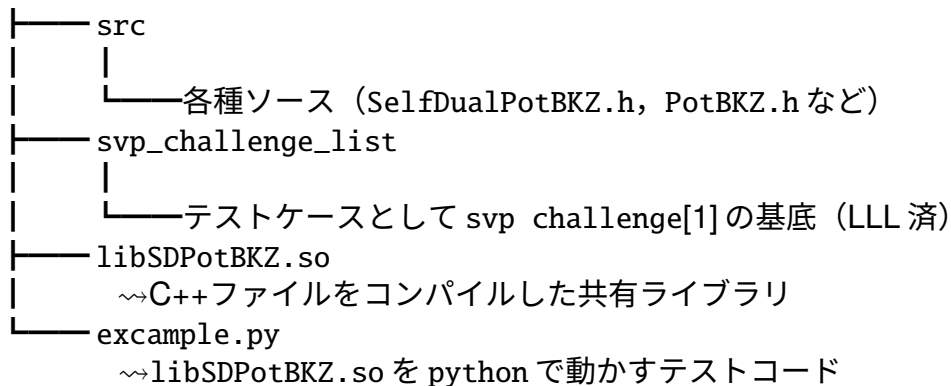
● 今回の実験結果から得られた知見

- ▶ PotBKZ や自己双対型 PotBKZ は BKZ ほどポテンシャルを下げれない
 - ★ より大きなブロックサイズを試せばBKZ 程度の品質が出せると期待
 - ★ より大きなブロックサイズの利用のため，**枝切り**や**篩**の適用をしたい

PotBKZ とその変種の公開ソースコード

- 本研究の成果となるソースコードを GitHub にて公開
<https://github.com/satoshin-des/self-dual-PotBKZ>

- ファイル構成



参考文献 I

- [1] TU Darmstadt.
SVP challenge.
Available at <https://www.latticechallenge.org/svp-challenge/>.
- [2] The FPLLL development team.
fpylll, a Python wrapper for the fplll lattice reduction library, Version: 0.6.1.
Available at <https://github.com/fplll/fpylll>, 2023.
- [3] Felix Fontein, Michael Schneider, and Urs Wagner.
PotLLL: A polynomial time version of LLL with deep insertions.
[Designs, Codes and Cryptography](#), 73:355–368, 2014.

参考文献 II

- [4] Nicolas Gama, Phong Q Nguyen, and Oded Regev.
Lattice enumeration using extreme pruning.
In Advances in Cryptology–EUROCRYPT 2010, volume 6110 of Lecture Notes in Computer Science, pages 257–278. Springer, 2010.
- [5] Gaël Guennebaud, Benoît Jacob, et al.
Eigen v3.
<http://eigen.tuxfamily.org>, 2010.
- [6] C. Hermite.
Extraits de lettres de M. Ch. Hermite à M. Jacobi sur différents objects de la théorie des nombres.
Journal für die reine und angewandte Mathematik, 40:261–277, 1850.

参考文献 III

- [7] Arjen Klaas Lenstra, Hendrik Willem Lenstra, and László Lovász.
Factoring polynomials with rational coefficients.
Mathematische Annalen, 261(4):515–534, 1982.
- [8] Daniele Micciancio and Michael Walter.
Practical, predictable lattice basis reduction.
In Advances in Cryptology–EUROCRYPT 2016, volume 9665 of Lecture Notes in Computer Science, pages 820–849. Springer, 2016.
- [9] Claus-Peter Schnorr and Martin Euchner.
Lattice basis reduction: Improved practical algorithms and solving subset sum problems.
Mathematical programming, 66:181–199, 1994.

参考文献 IV

- [10] Victor Shoup.
NTL: A Library for doing Number Theory.
<http://www.shoup.net/ntl/>.